

AWBCが2020年度「合同成果発表会」

旭川大経済学部・江口ゼミの「即席袋麺の開発」に最高賞

旭川市内の高等教育機関などで組織する旭川ウエルビーイング・コンソーシアム(AWBC)の2020年度「合同成果発表会」審査会が1月24日、旭川市内のフィール旭川で行われた。コロナ禍のため、例年行われていた参加チームによるプレゼンテーションは今回行われず、異例のポスター展示のみの開催となり、最高賞のAWBC賞には、旭川大経済学部経営経済学科江口ゼミナールの「北のゆめちからめん」の製品開発論」が選ばれた。ポスター展示は1月24日から29日まで、旭川市1条通7丁目のアッシュリー階アトリウムで行われた。

異例の「ポスター展示のみ」の開催

旭川市内の5つの高等教育機関(旭川医大、旭川大、同短期大学部、道教大旭川校、旭川工業高等専門学校)で学ぶ学生を対象に「それぞれの教育・研究機能を強化し、

その成果を地域社会に還元して地域の発展に貢献すること」を目的に2008年から開催され、旭川市と上川総合振興局が共催、旭川信用金庫が協賛。本年度は、コロナ禍のため、各大学の授業の多くがオンラインに切り換わり、「3密」回避のためにゼミ活動なども大きく制

約を受けるなど、通常の大学生活と大きく様子を異にしたことから、参加団体も前年を5団体下回る7団体に止まった。特に例年、意欲的な研究成果を発表してきた道教育大旭川校の参加がゼロだったのは寂しかった。この中、7人の審査委員(審査委員長 吉田貴彦・

旭川医大教授)が

慎重に審査した結果、AWBC賞に旭川大の江口ゼミ

ナール、これに次ぐ上川総合振興局長賞に旭川医大医学部看護学科の佐々木優衣さん、佐崎美矩さん、また旭川市長賞に旭川大経済学部経営経済学科の黒川ゼミナールが決まり、ほかの4団体には優秀賞が贈られた。

「旭川のラーメン文化」を全国に発信

このうち、AWBC賞に輝いた江口ゼミナールは、JA東旭川と一緒に取り組んだ即席袋麺「北のゆめちからめん」の開発プロセスについて報告。

東旭川産の小麦「ゆめちから」を100%使用した麺を使い、地元産の醤油とラードで独特の味わいを生み出すなど、「地元の魅力を発信したい」という思いで、すべて地元企業の協力を得てつくり上げた。完成までに1年6カ月を要し、江口ラーメンの味も再現できた」という。

ポスター発表では、「旭川の食文化を全国に発信するため」として、即席袋麺をJA東旭川と共同開発した経緯を「製品開発のストーリー」「製品コンセプト創造」「競合麺ポジショニング」「地元の力を結集」「地元産小麦ゆめちから」「100%の麺」「麺のストーリーを制作」「地元の老舗企業が作る醤油だれ」「ストーリー性あるパッケージ」「開発ストーリーの体現化」「全国に発信された旭川の魅



7人の審査委員が各チームのパネル展示を慎重に採点

力」「製品開発の経営学」以上、計11枚のパネルにまとめた。

「この商品は現在、市内4店舗で販売され、オンライン「食べマルシェ」を通じて、全国発信も行っている。まさにこの事業の目的に叶う取り組みとして、私はこの発表に最高点をつけた」と、審査員の一人。

旭川市長賞も旭川大の経済学部ゼミ

上川総合振興局長賞に選ばれた旭川医大医学部看護学科の佐々木優衣さん、佐崎美矩さんの「災害急性期の避難所での看護職の役割に関する文献検討」

は、検索して得られた文献から避難所における災害急性期の看護実践を示す内容を抽出し、コード化する内容。

「看護師の役割として、診療の補助や日常生活、環境整備等に加え、協力体制づくりや支援者へのケア等が明らかとなった。看護職は、被災地の支援関係者及び被災者との関係の構築、連携調整を行い、チームで継続的な支援につなげる調整役となることの重要性が示唆された」とした。

旭川市長賞を得た旭川大経済学部経営経済学科黒川ゼミナールの「旭川大経済学部学生に見る性別役割分業の現状と課題」は、「居場所づくりの研究を進めるなかで、「性別役割分業」という考えが、社会的にも大きな問題として認識されていることに気づき、その

解消に何が求められるか、考察・調査した。学生対象のアンケート調査の結果を踏まえ、6人のゼミナール員による

座談会を通じて問題を整理し、「性別役割分業は、日本の古い慣習や文化が根ざしていることにより我々の想像以上に複雑な問題であった。我々は、性別役割分業は格差や自由権の侵害につながるため、性別分業を完璧に改善すべき考えたが、これを完璧に改善することではなく、本人の意思を尊重した適材適所の人選を行うべきであるという結論を出した」とまとめている。

「寒締めホウレンソウ」の研究開発も

入賞には手が届かなかったが、旭川高専の3個人・団体から応募の

あった3テーマも、身近なところに注目した学生らしい問題意識始まる研究は可能性を感じさせるものだった。

「旭川高専生向けアプリ開発」は、学年に応じた勉強や進路、取り組むべきことに悩む高専生にターゲットを絞り、「現在の生活スタイルに対してのアドバイス」及び「希望の教員室に案内する地図」―2つの機能を実装したアプリを開発し、「より勉学に励めて時間を有効活用できるようサポートする」とした。

「寒締めホウレンソウの栽培システムの開発」は、市場価値が高い寒締めホウレンソウの低コストかつ省エネルギーな栽培システムの開発を目指した研究で、「栽培中の根を冷やすことで一般的なホウレンソウと比べ、糖度が高い寒締めホウレ

ンソウを栽培することができた」とまとめた。

「電磁石と小型ネオジウム磁石の吸引力を利用した磁気浮上装置の開発」は、小型軽量の浮上物体の素早い動きに対応させて高速なフィードバック制御を実現することが目指され、「本研究ではP S O Cを用いて制御コントローラーを構築する方法について検討した」という。

また、旭川医大の池田早希さん、及川礼夏さんの「看護学生の実習における心理的影響についての文献検討」は、学生が実習に前向きに取り組めるようになる心の準備方法について、先行研究によって明らかにする文献検討だった。

各賞の表彰式は行わず、後日、AWBCの事務局員が各校を回って伝達する。(鳥谷部)